

横浜市小学校社会科研究会

6 学年部会

研修会記録

第3号

令和6年7月3日

横浜市小学校教育研究会

会長 沼田 留美子

横浜市小学校社会科研究会

会長 高島 聡

同 学年部長 小池 智宏

【会 場】

横浜市立 平沼小学校

提案

曾根 先生（寺尾小）

司会

岡 先生（篠原西小）

記録

白木 先生（瀬谷小）

1 提案内容

【政治】横浜の中学校給食 ～わたしたちの暮らしを支える政治～

2 提案者より

- 身近な材を選択することで取り組みやすくしたかった。
- 中学校になったら、給食がなくなる。どう思うか。から授業を始めた。また、保護者へのインタビューや兄弟からの話を基に学習を進めていった。以下、指導案参照。

• 実践の実際

A児

実態→資料や事実から自分の考えをしっかりと発言することができる。発言力はあるが根拠が明確ではなく一面的なものの見方・考え方をしてしまうことが多く、多面的な見方・考え方をすることに課題がある。

教師の願い→学習問題に対して粘り強く考え、友達の考えに共感し、生活経験を基に学び合えるようになってほしい。また、多面的な考え方ができるようになってほしい。

B児

実態→学習に対しての苦手意識があり、取りかかるまでに時間がかかることがある。学習問題に対して自分なりの考えをもつことに課題がある。

教師の願い→生活経験から想像をふくらませ、つぶやきやノートへの表現を取り上げ、価値づけることで、自信につなげ学習意欲を引き出し、自分なりの考えをもてるようになってほしい。

視点① 子どもが自ら問いを見だし、主体的に学び続ける単元づくり

成果

「どうして横浜市では給食がないのだろう。」という疑問を多くの子どもが持つことができた。令和8年度から中学校完全給食実施が決定した。実際に中学で完全実施を迎える子ども達はこの事実を知って驚くとともに本当に実現可能なのか、予算はどうなっているのかなど、政治の働きを自分事として捉え、新たな問いをもつことができた。

課題

資料のほとんどを教師が準備していた。子ども達が問題意識に合わせて、自ら資料を探して調べることが難しかった。また、デリバリー方式について、認識のズレがあった。

視点② 個を生かし、協同的に学びを深めることができる授業づくり

成果

国語の学習に合わせて友達の保護者複数へインタビューを行うことにより、一人一人が問題について市民の願いを直接聞く機会を設けることができた。生の声を聞くことでほとんどの子ども達が学習問題を自分事として考えることができた。自分の考えをもってからインタビューを行った為、自分の考えと比べて聞くことができていた。

課題

振り返りの視点を具体的に必要性を感じた。政治の働きについて触れている児童が少なかった。結果、政治ではなく、給食に偏ってしまった。実施するにあたってのコストが大きすぎる点や途中で費用の問題で続けられなくなってしまうという意見も出ていたが深掘りすることができなかった。完全給食に対して否定的な児童も多く、その理由に対しても政治と結びつけて、深められたのではないかと思った。効果的な資料提示のタイミングが難しかった。資料提示のタイミングや内容も改めて考えたいと感じた。

3 協議会

視点1について

- ・導入での身近な材が良かった。主体的に取り組める。
- ・保護者へのインタビューにより、生の声を聞くことができた点が良かった。
- ・決まっているところについて話し合うのは難しいのではないかな。
- ・横浜市の職員にインタビューができれば、より具体的な話が聞けたのではないかな。
- ・給食と政治の結びつけが面白い。自分事として考えられる。
- ・資料の0%の数値が与える影響が大きい。
- ・資料は、大人が分かりやすく抜粋して適したものを選ぶことも必要ではないかな。
- ・資料を先に提示し、横浜市がどうしてデリバリー方式にしたのか。という流れにすれば本気の学習問題として成立するのではないかな。
→主語が大切。大丈夫は何に対してか。「横浜市」にすると深まったのではないかな。

視点2について

- ・本時ではなく前時の段階で子どもの意見を拾っていたら、本時でより一層深められたり、適切な資料を提示できたりしたかもしれない。
- ・本時のめあてでは、どこが大丈夫なのか。話し合う視点が定まっていた方が良かったのではないかな。
- ・「大丈夫？」の中身について、味なのか、お金なのか、そこを明確にすることで、追究する点が明確になったのではないかな。

<講師の先生より> 加藤 和え先生（大道小 校長）

- 題材を中学校給食にしたことが凄い。→関心は高いが、マイナスな面で見られている。6年生には、自分事として考えられる内容。横浜市では、中学校で給食というイメージがない。
- 5時、6時（法律、市長の公約、実施までの経緯）はどうやって展開したのか。何に基づいているか。ここで子どもがどれだけ抑えられているのか。
→ここは、しっかり抑えなければいけない。
- 横浜市の教育委員会はものすごい努力をしている。政治の働きを年表にまとめたり、要望に対しての努力を調べたりすることで、本気の学習問題が出てくる。ここで、政治の役割を確かめる。
- 何を切り取って何を見せるかを整理することで社会科になる。本気の学習問題は何か問題なのか。「大丈夫？」ではなく、大丈夫かどうか検討していこう。など。→大丈夫？問題？言葉に注意する。誰に対しての問題なのか。
- 税金→予算（全体の中の%は？）R6 51億程度+12億
→政治の問題として取り扱っていく。
- どういう資料を使うべきかについては、何をおさえさせたいかを考えることで、見えてくる。学習指導要領からそこをおさえしていく。

文責 白木 雄斗（瀬谷小学校）